KYUSHU NATIONAL MUSEUM

KYUSHU NATIONAL MUSEUM

2023

海の道、アジアの路

OCEAN WAYS, ASIAN PATHS

埴輪　鹿

市民と共生する博物館

ごあいさつ

九州国立博物館長　**島 谷 弘 幸**

九州国立博物館（九博）は、日本文化の形成をアジアとの交流から考えるというコンセプトを柱に、2005年に開館しました。これまでの間、地域の方をはじめとする多くの皆様からの温かい応援に支えられ、おかげさまで1,800万人を超える来館者をお迎えすることができました。

コロナ禍以降、ご自宅でも文化財に親しめるようにインターネットでの情報発信を強化するなど、当館でも博物館の新しいありかたを模索しております。その一方で、先人から受け継いだ貴重な文化財を守り、魅力を発信するという博物館の使命は、変わることはありません。これからの時代も、「学校より面白く、教科書より分かり易い」を目標に、皆様にとって親しみやすく、安心して楽しめる博物館を目指してまいります。

を目指して

■九州国立博物館のコンセプト

日本文化の形成をアジア史的観点から捉える

このコンセプトは平成6(1994)年6月に文化庁が設置した「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」において取りまとめられた、次の基本構想を基に考えられました。

Concept 1

我が国の文化の形成において影響のあったアジア諸地域との文化交流の歴史を全国的な視野から扱う博物館

Concept 2

考古資料、歴史資料、美術資料、民俗資料、民族資料を中心とした文化財の収集・保存、展示、調査・研究及び教育普及・生涯学習活動が総合的に機能する博物館

Concept 3

博物館の諸活動全般が国際化、情報化、学際化され、特に展示及び教育普及・生涯学習活動にその成果が常に反映される、いわゆる「生きている」博物館

Concept 4

国と博物館が設置される地域と連携し、相互に協力しながら博物館の諸活動及び管理運営をおこなう博物館

●九州国立博物館の画期的な事業運営
国(独立行政法人)と福岡県が連携協力して事業運営をしています。

国	独立行政法人 国立文化財機構	事業運営の 連携協力	福岡県	福岡県立アジア 文化交流センター

P26

フロア構成・施設紹介

4F

文化交流展示室

「海の道、アジアの路」

床面積約3,900㎡、天井高7mの黒色を基調とした展示室。基本展示室および11の展示室で構成されています。

P5

3F

特別展示室

床面積約1,500㎡、天井高7mの木色を基調とした展示室。
大中小3部屋で構成されています。

P9

2F

収蔵庫

建物の中心に位置する収蔵庫にて、貴重な文化財を管理しています。

P19

保存修復施設

保存修復施設を6つ備えています。一般のお客様には「バックヤードツアー」により公開しています。

P21

1F

エントランスホール

P23

総合案内所などを設置。
館外には、しだれ桜の群生などを眺めることができる里山散策路や蓮池、東屋、茶室があります。

研修室AB

和室（研修室C）

エントランスホール
天井には九州各地の間伐材を使用

茶室

P23

広間棟茶室「宝満亭」

小間棟茶室「吉兆庵」

九州国立博物館は、周囲の山並みに溶け込む穏やかな曲線を描いた外観が特徴です。

副館長
山田　信吾

各フロアには展示室やホール、ショップ、研究室、収蔵庫などがあり、様々な施設で構成されています。また、建物周辺は建設前からの自然を多く残しており、四季折々の表情を楽しむことができます。

P22・25

○建築概要
事業主体：文化庁、福岡県、(財)九州国立博物館設置促進財団
設計監理：菊竹・久米設計共同体
設計期間：平成11(1999)年9月～平成13(2001)年3月
施工期間：平成14(2002)年3月～平成16(2004)年3月

○規　　模
東西160m×南北80m　地下2階・地上5階
最も高い場所：36.1m　軒高：35.0m
延面積：30,675㎡　建築面積：14,623㎡
土地面積：159,844㎡
構造：鉄骨軸カヴォールト構造(屋根)/S造・SRC造(地下部)/
一部免震構造(博物館機能部)

1階には様々なイベントが行われるホールや、アジアを五感で体感できる展示等があります。大人から子どもまで楽しみながら学べるスペースです。

ミュージアムホール

講演会やコンサートなど様々な催しを開催しています。貸施設としてご利用いただくこともできます。(有料)

P23

あじっぱ

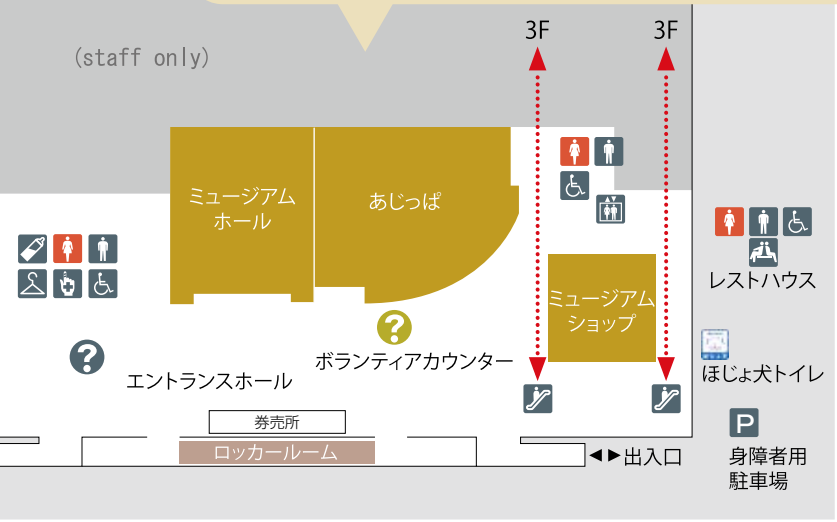
日本と交流があった国々の文化を五感で楽しむことができる体験型展示室です。

P13

ミュージアムショップ

オリジナルグッズをはじめたくさんのラインナップにてお待ちしております。

P23



女性トイレ　多目的トイレ　案内所　エレベーター　エスカレーター

CONTENTS

文化交流展 …… 5
特別展 …… 9
教育普及活動・ボランティア …… 13
調査・研究活動 …… 15
国際交流 …… 17
多彩なイベント …… 18
保管・収集 …… 19
修復技術 …… 21
免震構造 …… 22
施設利用案内／会員制度・出版物 …… 23
施設情報／組織・沿革 …… 25

文化交流展「海の道、アジアの路」

落ち着いた展示室が作品の魅力をひき立てる 文化交流展示室

来るたびに新たな出会い

テーマは「海の道、アジアの路」日本がアジア、ヨーロッパとの交流の中で育んできた歴史のドラマを体感できます

九州は、大陸や半島にもっとも近い場所に位置し、古くから交流の舞台となってきました。九州国立博物館では「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」というコンセプトのもとに、文化交流展示室（平常展）（床面積約3,900㎡）において、日本とアジアとの文化交流の歴史をご紹介します。

展示は、旧石器時代から近世末期（開国）までを5つのテーマに分けて紹介。各時代の文化交流史に欠かせない作品を鑑賞できる「基本展示室」と、個別のテーマに焦点をあてた11の展示室から構成されています。

ほとんど毎週、どこかのケースで展示替えを行うことで常に新鮮な展示になるよう努めています。また、再現文化財（復元模造）や迫力のある映像により、リアリティ溢れる展示が体験できます。

文化交流展室は写真撮影が可能（一部を除く）なので、お気に入りの作品を撮ってSNSにアップし、お楽しみいただくことができます。

column ｜ テーマカラーで、もっと分かりやすく！

学芸部企画課長
伊藤　信二

文化交流展示室の5つのテーマには、それぞれテーマカラーを設定しています。作品のひとつひとつにカラーバーを添えることで、どのテーマの作品か一目で分かるよう工夫しています。

作品のひとつひとつにカラーバーを添えています。

5つの基本展示室

1　縄文人、海へ（3万5千年前～紀元前4世紀）

氷河期であった旧石器時代。人々は大型動物を狩り、植物を採集し、遊動生活をおくっていた。縄文時代には気候が温暖化し、森にはたくさんの木の実がなり、小型動物が現れ、海は豊かな漁場となった。人々は土器を作って食料を煮炊きし、定住生活をおくり、飾り、祈り、弔いも行った。サケなどの食料が豊富な東日本では、特に成熟した文化が花開いた。

2　稲づくりから国づくり（紀元前4世紀～紀元後7世紀）

弥生時代、大陸から米作りや金属器が九州に伝わった。農作業を共同で行なう中で人々をまとめる首長が現れ、やがて地域を治める王になった。古墳時代には列島の大半を治める大王が現れた。大陸からは多くの人々が渡来し、乗馬の文化や須恵器製作の技術を伝えた。九州では石人や装飾壁画によって首長の死後の安寧を祈る独自の古墳文化が展開した。

3　遣唐使の時代（7世紀～12世紀）

奈良時代の日本は唐の都長安に遣唐使を送り、先進的な国家制度や仏教を学び、国際色豊かな品々を持ち帰った。大宰府はアジアとの外交・貿易の拠点として繋栄した。平安時代には、渡来の文化を基盤に、「仮名」に代表されるような日本独自の新しい文化が生まれた。仏教でも密教や極楽往生を願う信仰が流行し、未来に経典を残すために経塚が盛んに造られた。

4　アジアの海は日々これ交易（12世紀～16世紀）

武士が台頭した鎌倉時代から室町時代にかけて、アジア諸国の貿易商人たちは大海原をさかんに往来した。京都や博多などの都市をはじめ、各地で商業が発達した。覇権を争った武士たちのあいだでは、禅僧が伝えた水墨画や茶などが富や権力の象徴として流行し、それはやがて日本の伝統文化を代表する茶の湯（茶道）へと発展した。

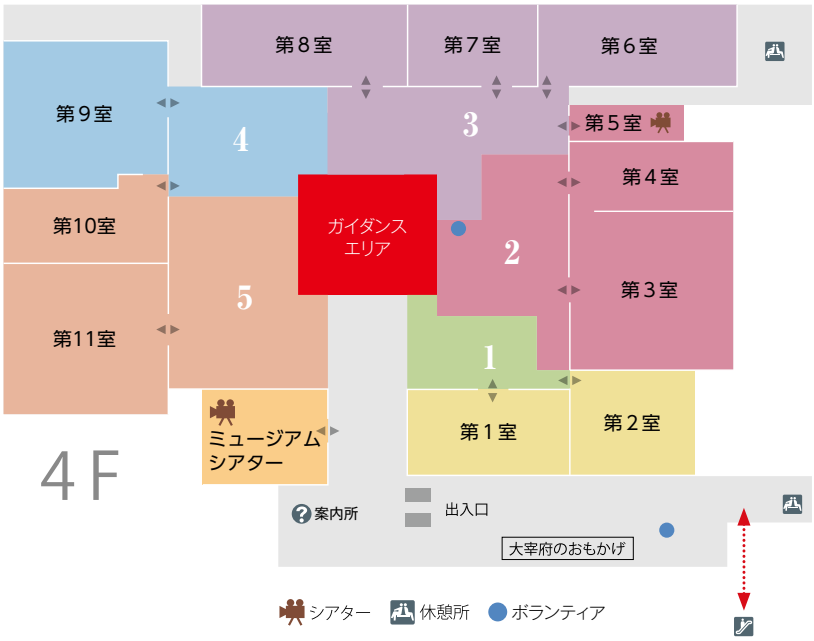
5　丸くなった地球 近づく西洋（16世紀～19世紀）

室町時代の終わりから安土桃山時代は、ヨーロッパの大航海時代にあたる。アジアに進出してきたヨーロッパ人との交流を通じて、鉄砲やキリスト教が日本にもたらされ、日本からは銀や工芸品などが海を渡った。戦乱が終わり社会が安定した江戸時代、日本は長崎や対馬、琉球、蝦夷地を通じて世界とつながった。日本の磁器や漆器が世界を魅了した一方、国内でも世界への知識は広がり、蘭学など多彩な文化が育まれ、やがて訪れる近代への礎となった。

Ⓐ ガイダンスコーナー
Ⓒ 第1室　寄贈者顕彰室
Ⓔ 欧州を魅了した伊万里焼
（「5 丸くなった地球 近づく西洋」の一部）

Ⓑ 遣唐使船復元模型
Ⓓ ならべてわかる本物のひみつ 実物とレプリカ（第7室にて開催）
Ⓕ 新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」
（第9室にて開催）

展示室マップ



11の展示室

第1室　寄贈者顕彰室
重要文化財「色絵松竹梅文瓶子」、「洛中洛外図屏風」、「刀　朱銘長義」など、当館にご寄贈いただいた貴重な文化財を展示します。

第2室　アジアの民族造形 －金子量重記念室－
開館以来、約1,200点もの貴重なアジア民族造形コレクションを寄贈いただいた金子量重氏の名を冠した展示室。アジアが育んだ多彩で豊かな生活文化の結晶を楽しめる展示室です。

2 稲づくりから国づくり

第3室　倭人伝の世界
弥生時代の九州北部では、日本文化の基盤の一つとなった稲作文化が根づき、金属器等の物資が行き交いました。日本の国づくりを支えた技術や思想をご紹介します。

第4室　にぎやかな古墳のまつり
古墳の外周に立てられた埴輪や石人などの造形は、古墳時代の息づかいを今に伝える歴史の証人。当時の人々のくらしや死者への想いをかいま見ることができます。

第5室　映像シアター
内部への立ち入りが制限されている装飾古墳を最新の技術で映像化。大宰府の紹介映像も上映しています。（随時入室可能。）

3 遣唐使の時代

第6室　アジア人の理想の姿
アジアの人々が理想の人間の姿を求め続けた証である仏像。優美で荘厳な仏教彫刻や絵画など、仏教美術の多様な世界とアジア的な展開を心ゆくまでご堪能ください。

第7室　アジアを旅する
アジアの国や地域、時代にとらわれない、親しみやすいテーマを毎回設定し、当館の所蔵品を中心とした展示を行います。まるでアジアを散歩するかのように、お気軽にお楽しみください。

第8室　遣唐使とシルクロード
遣唐使があこがれた長安やシルクロード交易の様子を、ユーラシア各地からの出土品を通してご紹介します。遣唐使船の積み荷を復元した展示も見どころです。

4 アジアの海は日々これ交易

第9室　交流する中世の人とモノ
アジア諸国で展開した歴史と文化について、その独自性や共通性を美術品や歴史資料を通してご紹介します。

5 丸くなった地球 近づく西洋

第10室　九州陶磁の華 －田中丸コレクション－
実業家であり陶磁器収集の大家としても知られている田中丸善八氏が集めた九州の陶磁器を展示。名品の数々をご覧ください。

第11室　多彩な江戸文化
江戸時代の華麗で多彩な展開を物語る美術品・工芸品の数々を展示。長崎や琉球など、交流が生み出した造形品にも光を当てます。

日本とアジアの文化交流に触れ、
先人の息吹を体感

文化交流展「特集展示、特別公開」

期間限定で行う独創的な展示で、展示室をさらに華やかに彩ります。

令和4年度の特集展示　PICK UP

特集展示
きゅーはく女子考古部プレゼンツ　かわいい考古学のススメ

令和4(2022)年4月19日(火)～7月24日(日)

九州国立博物館が平成27年(2015)に考古好きの女性市民のために立ち上げたのがきゅーはく女子考古部。その部員たちが職員と連携しながら展覧会タイトルを考え、所蔵する考古資料の中から「かわいい」という視点で展示品を選び、どこが魅力的なのかを伝える「かわいい解説」を執筆しました。アンケートの結果、普段は考古展を敬遠しがちな若年層の女性にも大好評でした。

◎主な展示作品

- 馬形埴輪　古墳時代・6世紀　九州国立博物館
- 子持勾玉　古墳時代・6世紀　九州国立博物館
- 人面文小玉　ローマ時代・前2～後2世紀　九州国立博物館(柴田惠美子氏寄贈)

特集展示
御所の器―公家山科家伝来の古伊万里

令和4(2022)年9月27日(火)～11月20日(日)

江戸時代、天皇家の食膳具には菊御紋をあしらった品格のある伊万里焼の染付磁器が用いられていました。それらは毎月一日に新調され、使用後のものは公家、門跡、宮中に仕える役人・女官などに「お下がり」として下賜されたと伝わります。本展では藤原北家の流れを汲む公家・山科家に伝来した貴重な御所の器の全貌を初公開しました。

◎主な展示作品

- 昭憲皇太后(明治天皇皇后)御下賜　煙草盆　明治時代・19世紀　山科有職研究所
- 染付菊御紋竹節文皿　江戸時代・18世紀後半～19世紀前半　山科有職研究所
- 染付菊御紋鳳凰菊牡丹撫子文手焙　明治時代・19世紀　山科有職研究所

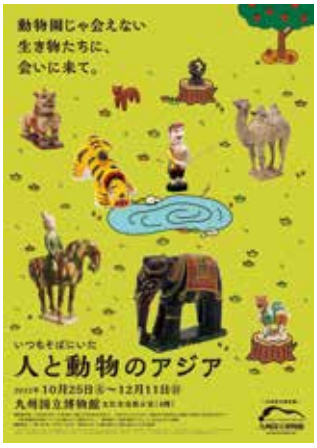
特集展示
種子島―風と波が育んだ歴史―

令和4(2022)年12月13日(火)～令和5(2023)2月12日(日)

鉄砲伝来の地、ロケット打ち上げの舞台として知られる種子島。九州島の南にあり、黒潮が岸を洗うこの島は、実は日本列島で最も古い人々の活動の痕跡が見つかった場所のひとつです。九州島、そして南の島々と交流を重ね、独自の文化と風習を伝えてきました。発掘調査で出土した資料や島の内外に伝わる文化財を通じて、この島の知られざる交流の歴史を紹介しました。

◎主な展示作品

- 西之表象化石　新生代更新世・137万年前　鹿児島・種子島開発総合センター
- 木簡「多嶽嶋」　奈良時代・8世紀　奈良文化財研究所
- 大隅国熊毛郡種子嶋沿海図　江戸時代・19世紀　京都大学附属図書館



文化交流展
いつもそばにいた　人と動物のアジア

令和4(2022)年10月25日(火)～12月11日(日)

九州国立博物館が所蔵するコレクションの中には、動物を表現したもの、動物を意匠に採り入れたもの、動物を材質とするものなど、動物にちなむさまざまな作品が含まれています。これらは、日本、そしてアジアにおいて、人間と生き物が共に生きてきた長い歴史を物語るものです。文化交流展室の各所においてそれらの作品を合わせて紹介し、人間と動物との関係を見つめ直す機会としました。

◎主な展示作品

- 椰子実割り　タイ・20世紀　九州国立博物館(金子量重氏寄贈)
- 笊面　虎　ベトナム・20世紀　九州国立博物館(金子量重氏寄贈)
- 騎馬女子俑　唐時代・8世紀　東京国立博物館

文化交流の深層へ

文化交流展室展示風景（多宝千仏石幢）

開館15周年記念特別映像「大宰府と大伴旅人」（映像シアター）

ミュージアムトーク・きゅーはく☆とっておき講座

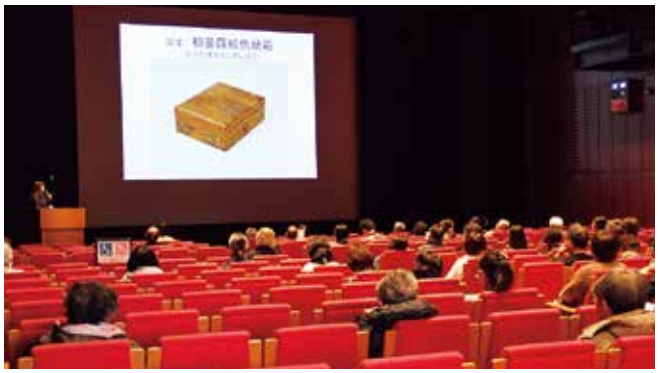
九州国立博物館の研究員による展示解説を開催しています。

・ミュージアムトーク
実施日時：1・3・5週の火曜日（原則）（午後3時から30分程度）
場　　所：文化交流展示室内
聴 講 料：無料（ただし文化交流展の観覧料は必要です。）

・きゅーはく☆とっておき講座
実施日時：年4～6回　60～90分
場　　所：ミュージアムホール
聴 講 料：無料

これまでの内容

- 影絵人形ワヤン・クリでみるラーマーヤナ物語
- 沖ノ島ってどんなところ?
- 中国・遼代の染織品
- 灰汁の科学　～災害で水濡れし、くっついて読めない古文書を開く～
- むしが出る―啓蟄恒例・はらのむし―



column ｜ 研究員が楽しく解説！

ミュージアムトーク、きゅーはく☆とっておき講座では、研究員がイチオシする展示や作品について、その見どころや時代背景、最新の研究成果などを熱く語っています。裏話や歴史秘話もとび出します。トーク終了後は質問もお受けします。

また、YouTubeの「kyuhakuchannel」でも、館員が出演するわかりやすくて面白い解説動画を随時更新しています。こちらも、ぜひお楽しみください。

展示課長
齋部　麻矢

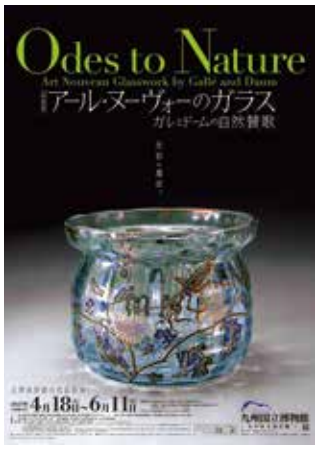
特別展

特別展「ポンペイ」の展示風景

特別展は世界の美と知が集結した、感動の宝庫。

年に数回開催する特別展では、様々なテーマのもと、国内外の優品を選りすぐってご紹介します。展示の切り口も毎回趣向を凝らし、初めての方でも十分に楽しめる、よく知っている方は更に楽しめる展覧会を目指しています。

令和5年度のスケジュール



4.18～6.11	アール・ヌーヴォーのガラス　ーガレとドームの自然賛歌ー
7.11～9.3	憧れの東洋陶磁　ー大阪市立東洋陶磁美術館の至宝
10.3～12.10	古代メキシコ　ーマヤ、アステカ、テオティワカン
R6(2024).2.6～3.31	生誕270年　長沢芦雪　ー若冲、応挙につづく天才画家ー

※展覧会の開催および会期は変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

“特別”な美と知の世界

様々なテーマで開催される特別展は九州国立博物館の一大イベント。
その貴重な展示品と斬新な企画は、広く注目を集めています。

令和4年度の特別展

北斎

令和4(2022)年4月16日(土)～6月12日(日)(51日間)　入場者数135,955人

門外不出「日新除魔図」219点日本初の一挙公開

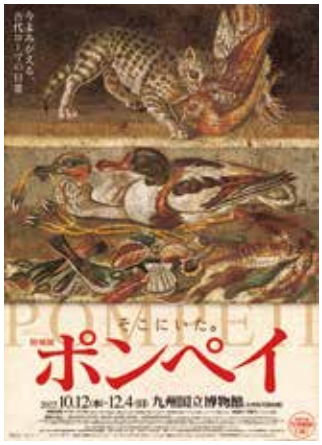
世界でもっとも有名な日本の画家、葛飾北斎(1760～1849)。本展では、北斎による当館蔵の重要文化財「日新除魔図」の全場面を日本で初めて一般に公開しました。さらに「冨嶽三十六景」や「東町祭屋台天井絵」などの代表作も展示し、北斎の魅力的で多彩な絵画世界を紹介しました。

沖縄復帰50年記念 特別展　琉球

令和4(2022)年7月16日(土)～9月4日(日)(45日間)　入場者数41,054人

国宝「琉球国王尚家関係資料」を中心に多様な文化財を紹介

かつて琉球王国として独自の歴史と特色豊かな文化を育んだ沖縄は、現在もその歴史と文化を未来につなげる努力を続けています。沖縄の復帰50年を記念した本展では、琉球・沖縄ゆかりの文化財と復興の歩みを過去最大規模で紹介し、アジアにおける琉球王国の成立、および特色豊かな文化の形成と継承の意義を紐解きました。



ポンペイ

令和4(2022)年10月12日(水)～12月4日(日)(48日間)　入場者数79,919人

イタリア・ナポリから日本初出品を含む125件を公開

紀元後79年に火山の噴火で埋没した「ポンペイ」の街には、当時の人々の生活空間が封印されていました。本展覧会では、発掘されたモザイク、壁画、彫像、工芸品の名品や生活用品など、ナポリ国立考古学博物館所蔵品をメインに125件の作品を展示し、古代都市ポンペイの繁栄と、人々の多様な生活をよみがえらせました。

加耶

令和5(2023)年1月24日(火)～3月19日(日)(48日間)　入場者数26,990人

古代朝鮮半島と倭国の交流に迫る決定版

加耶は朝鮮半島中南部に興った国々の総称です。鉄で栄え、金で飾った加耶諸国は、古墳時代の日本にも様々な影響を与えました。本展では、最新の研究成果に基づいて、加耶の興亡の歴史をたどりました。また、加耶をはじめとする様々な地域から日本列島に移住してきた「渡来人」たちがもたらした文化・技術に着目し、発掘調査出土品から、日本文化の形成過程に迫りました。

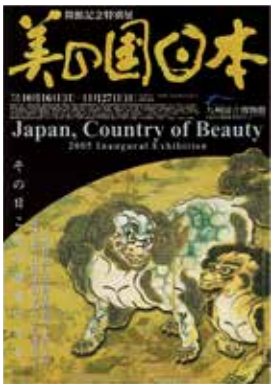
学芸部長
白井　克也

column ｜ 特別展がはじまるまで・・・

特別展は、数年、ときにはそれ以上に及ぶ研究員の調査研究成果を示すものです。社寺の名宝や、九州を中心とした国際交流、さらに西洋美術まで、幅広く取り上げてきました。展覧会を楽しく、わかりやすくするため一工夫を加えるのが、九博の特徴です。

特別展

過去の特別展　PICK UP



美の国 日本

平成17(2005)年10月16日～11月27日(43日間)
入場者数：441,938人

開館記念の特別展。
ふだんは気づかない美しき日本の文化にふれる

九州国立博物館の開館記念として開催された特別展「美の国 日本」。東アジアの一国家として成立した古代日本の文化財、また、大航海時代のさなかの西洋諸国との交流から生まれた安土・桃山時代の文化財から、国宝7件・重要文化財30件を含む122件を選りすぐってご覧いただきました。なお、平成27年度には、開館10周年記念としてふたたび「美の国 日本」を開催しました。

特別展　HISTORY

平成17年度(2005)

美の国 日本
10.16～11.27(43日間)　441,938人

中国 美の十字路
平成18(2006)1.1～4.2(80日間)　251,963人

平成18年度(2006)

うるま ちゅら島 琉球
4.29～6.25(51日間)　177,478人

南の貝のものがたり
7.29～9.3(37日間)　63,560人

海の神々
10.8～11.26(45日間)　139,981人

若冲と江戸絵画
平成19(2007)1.1～3.11(62日間)　300,171人

平成19年度(2007)

未来への贈りもの
4.10～6.10(54日間)　77,380人

日本のやきもの
7.7～8.26(46日間)　50,986人

本願寺展
9.22～11.18(51日間)　197,697人

京都五山 禅の文化展
平成20(2008)1.1～2.24(49日間)　171,336人

平成20年度(2008)

国宝 大絵巻展
3.22～6.1(64日間)　131,197人

島津の国宝と篤姫の時代
7.12～8.24(40日間)　152,420人

国宝 天神さま
9.23～11.30(61日間)　174,698人

工芸のいま 伝統と創造
平成21(2009)1.1～3.16(65日間)　72,637人

平成21年度(2009)

聖地チベット
ポタラ宮と天空の至宝
4.11～6.14(58日間)　140,917人

興福寺創建1300年記念
国宝 阿修羅展
7.14～9.27(68日間)　711,154人

古代九州の国宝
10.20～11.29(37日間)　72,741人

京都妙心寺
ー禅の至宝と九州・琉球
平成22(2010)1.1～2.28(52日間)　130,231人

平成22年度(2010)

パリに咲いた古伊万里の華
4.6～6.13(61日間)　84,738人

馬 アジアを駆けた二千年
7.13～9.5(48日間)　42,022人

誕生! 中国文明
10.5～11.28(48日間)　53,409人

没後120年　ゴッホ展
平成23(2011)1.1～2.13(42日間)　354,311人

平成23年度(2011)

黄檗ーOBAKU
3.15～5.22(61日間)　55,539人

よみがえる国宝
ー守り伝える日本の美
6.28～8.28(54日間)　118,528人

草原の王朝 契丹
ー美しき3人のプリンセス
9.27～11.27(54日間)　75,880人

細川家の至宝
ー珠玉の永青文庫コレクション
平成24(2012)1.1～3.4(56日間)　113,290人

平成24年度(2012)

平山郁夫 シルクロードの軌跡
ー人類の遺産にかけた画家の人生ー
4.3～5.27(49日間)　110,047人

美のワンダーランド
十五人の京絵師
7.10～9.2(49日間)　75,415人

ベルリン国立美術館展
ー学べるヨーロッパ美術の400年ー
10.9～12.2(51日間)　224,324人

ボストン美術館
日本美術の至宝
平成25(2013)1.1～3.17(66日間)　236,725人

特別展　HISTORY

平成25年度（2013）

大ベトナム展
4.16～6.9（49日間）　71,192人

中国 王朝の至宝
7.9～9.16（62日間）　77,554人

尾張 徳川家の至宝
10.12～12.8（50日間）　139,448人

国宝 大神社展
平成26（2014）1.15～3.9（47日間）　89,561人

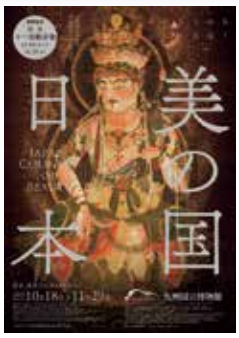
平成26年度（2014）

華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝
―京都・陽明文庫展
4.15～6.8（49日間）　60,808人

クリーブランド美術館展
―名画でたどる日本の美
7.8～8.31（49日間）　70,794人

台北 國立故宮博物院
―神品至宝―
10.7～11.30（51日間）　256,070人

古代日本と百済の交流
―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘―
平成27（2015）1.1～3.1（52日間）　59,629人



平成27年度（2015）

戦国大名
―九州の群雄とアジアの波涛―
4.21～5.31（37日間）　77,455人

大英博物館展
―100のモノが語る世界の歴史
7.14～9.6（49日間）　133,174人

美の国 日本
10.18～11.29（40日間）　160,753人

黄金のアフガニスタン
―守りぬかれたシルクロードの秘宝―
平成28（2016）1.1～2.14（42日間）　67,641人

平成28年度（2016）

始皇帝と大兵馬俑
3.15～6.12（79日間）　191,222人

東山魁夷
自然と人、そして町
7.16～8.28（39日間）　133,002人

京都　高山寺と明恵上人
―特別公開　鳥獣戯画―
10.4～11.20（45日間）　161,172人

宗像・沖ノ島と大和朝廷
平成29（2017）1.1～3.5（56日間）　75,966人

平成29年度（2017）

タイ～仏の国の輝き～
4.11～6.4（49日間）　56,314人

世界遺産　ラスコー展
クロマニョン人が見た世界
7.11～9.3（49日間）　118,555人

新・桃山展
―大航海時代の日本美術
10.14～11.26（38日間）　87,413人

王羲之と日本の書
平成30（2018）2.10～4.8（50日間）　70,110人

平成30年度（2018）

至上の印象派展
ビュールレ・コレクション
5.19～7.16（54日間）　198,489人

オークラコレクション
10.2～12.9（58日間）　63,069人

京都・醍醐寺
―真言密教の宇宙―
平成31（2019）1.29～3.24（48日間）　74,748人

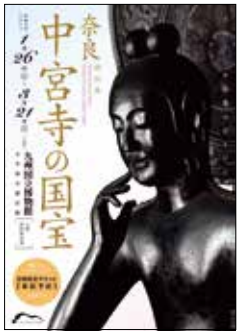
平成31（令和元）年度（2019）

京都 大報恩寺
快慶・定慶のみほとけ
4.23～6.16（49日間）　53,524人

室町将軍
―戦乱と美の足利十五代―
7.13～9.1（45日間）　86,399人

日中文化交流協定締結40周年
特別展「三国志」
10.1～令和2（2020）1.5（77日間）　140,155人

ルネ・ユイグのまなざし
フランス絵画の精華 大様式の形成と変容
令和2（2020）2.4～3.29（48日間）　45,636人
※2/27～3/29は臨時休館



令和2年度（2020）

奈良・中宮寺の国宝
令和3（2021）1.26～3.21（48日間）　50,432人

令和3年度（2021）

御大典記念　特別展
よみがえる正倉院宝物
―再現模造にみる天平の技―
4.20～6.13（49日間）　18,157人

皇室の名宝―皇室と九州をむすぶ美―
7.20～8.29（37日間）　43,197人

海幸山幸―祈りと恵みの風景―
10.9～12.5（50日間）　17,383人

伝教大師1200年大遠忌記念
最澄と天台宗のすべて
令和4（2022）2.8～3.21（37日間）　29,518人

令和4年度（2022）

北斎
4.16～6.12（51日間）　135,955人

沖縄復帰50年記念 特別展 琉球
7.16～9.4（45日間）　41,054人

ポンペイ
10.12～12.4（48日間）　79,919人

加耶
令和5（2023）1.24～3.19（48日間）　26,990人

column ｜ 訪れる人を とりこにする至宝の数々

日本やアジアの歴史や文化を中心に、西洋をテーマとしたものまで数多くの特別展を開催してきました。世の中の動きに合わせ、展覧会のテーマに関連するイベントやさまざまな情報発信を充実させ、皆様にとってより満足度の高い展覧会を目指します。また文化交流展では、特別展と関連する展示もしばしば企画していますので、あわせてお楽しみください。

副館長
小泉　惠英

教育普及活動・ボランティア

見て、触って、体感する博物館

学校よりも面白く、教科書よりもわかりやすい

五感で体感できる展示や独自の教育普及プログラムを展開。
ボランティアとともに、教育や地域社会への貢献に向け努力しています。

あじっぱ

1階にある無料の体験型展示室「あじっぱ」。「あじっぱ」とは、“アジアのはらっぱ”という意味で、ここでは日本と交流のあったアジアやヨーロッパの国々の文化を五感で体験することができます。

お子様が初めて博物館に出会う場所として、また、ご家族で一緒に楽しんでいただけるように、展示内容やデザインに工夫を凝らしています。

あじ庵
季節等に合わせてあじっぱの中でも特に注目してもらいたいものを展示しています。

あじぎゃら
時期によりテーマを定めて展示。学芸員や考古学者の体験を行うこともできます。

たなだ
色々な国の街の音や音楽を聞いたり、ものづくりの様子を見たりすることができます。

きゅうぱっく

九州国立博物館の所蔵品をベースに開発した学習支援ツールで、学校の授業での活用を主な目的としています。トランクいっぱいに詰められた実物資料や最新技術を駆使したレプリカなどを利用して、博物館にいるかのような体験をどこでも味わうことができます（全部で16種類）。

授業の他にも学校行事・研修会、博物館見学の事前学習等にご利用いただき、「ほんもの」に触れる感動を味わってください。なお、貸出は無料です。
※直接受け取り・返却ができない場合には、往復の輸送費のみ負担していただきます。（P23も参照）

多様な来館者のためのプログラム

展示のみならず博物館の楽しみ方や魅力を知っていただくため、幅広いお客様が参加できるプログラムに取り組んでいます。

文化交流展では、弥生時代に北部九州で使われた甕棺という棺のレプリカを使って、参加者が埋葬される体験と、王を埋葬する体験の2つのワークショップを実施しました。

日本に住む外国人向けに開催した「外国人のための　やさしい日本語で　博物館の見学」では、刀を解体するデモンストレーションや、土偶、古伊万里などの作品解説をしました。

障がい者を対象としたイベントも多数開催しています。視覚障がい者向けバックヤードツアーやレプリカ&楽器体験のほか、手話通訳や要約字幕がついたバックヤードツアー、九博の建物を紹介するイベントなども実施しました。

さらに、視覚や聴覚に障害がある方にも楽しめる音声ガイド「ナビレンスdeきゅーはく」を開始。様々な来館者の方に楽しんでいただいています。

主な実績

甕棺墓埋葬体験ワークショップ「甕棺に入ろう」

実寸大の甕棺レプリカに埋葬される体験。

甕棺墓埋葬体験ワークショップ「伊都国王のお葬式」

亡くなった王を甕棺に入れ、甕棺を埋めるまでの一連の流れを劇で体験。

在住外国人向けイベント「外国人のための　やさしい日本語で　博物館の見学」

やさしい日本語で、パネルやイラストを使いながらわかりやすく解説。

視覚障がい者向けバックヤードツアー

九博の建築模型や実物大の免震装置、収蔵庫の模型などを触る体験や大型エレベータに乗る体験も。

手話通訳付きオンラインバックヤードツアー

クイズや質疑応答を交えながら展示室の裏側と収蔵品を守るための工夫を紹介。要約字幕も付けた。

音声ガイド「ナビレンスdeきゅーはく」

音声で聞くガイド「ナビレンス」と、文字や手話で見るガイド「ナビレンス GO」の2種類を用意。

ボランティア活動

九州国立博物館の太宰府への誘致・設立にあたっては、地元住民の熱心な応援が決め手となりました。こういった流れを汲み、「地域・市民とともに歩む」当館では、ボランティアは博物館の象徴的な存在となっています。“博物館に来てくれた人に歴史や文化に親しんでもらいたい”、“もっと博物館を楽しんで欲しい”という熱い思いで来館者と一緒に博物館を楽しむボランティアによって九州国立博物館は支えられています。

ボランティアは、展示解説、教育普及、館内案内など12のグループに分かれて多彩な活動を行っています。

各ボランティア部会の活動内容

展示解説	文化交流展示室の展示物の案内。 予約団体（一般団体・学校）および当日受付（個人・グループ）に対応。
教育普及	体験型展示室「あじっぱ」での来館者の対応。 参加体験型のものづくりワークショップなどの企画・実施。
館内案内 （外国語案内含む）	館内の概要・施設案内、バックヤードツアーの案内。 外国語案内は、英・中・韓国語での館内の概要・施設案内。
環境	IPM（総合的有害生物管理）活動に関する支援。
資料整理	郷土人形の調書の作成・データ化および「あじぎゃら」での企画展示。
イベント・サポート	広報誌の作成や来館者対象イベントの企画・実施
学生	高校生・大学生によるイベントの企画・実施。
フィールド	散策路の維持管理・山林の保全活動。
手話	地域のボランティアグループにより構成。聴覚障がい者対応などを支援。

column ｜ 大人気のバックヤードツアー

総務課長
執行　正一

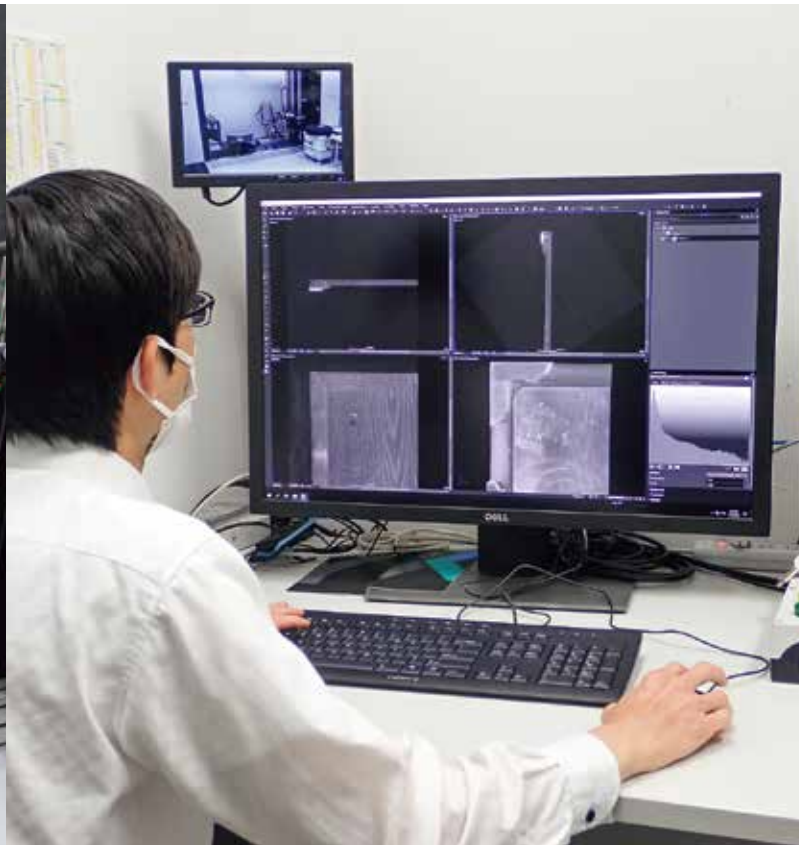
館の職員以外は決して立ち入ることができない博物館の内側。

ここには、収集した文化財を保管する収蔵庫や最新の技術で文化財を守る保存修復施設等の博物館の心臓部と言うべきものがあります。普段は見ることができないこれらの施設・設備を館内案内ボランティアがわかりやすくご案内するバックヤードツアーは大変好評をいただいています。

文化財を「集める」「守る」「展示する」博物館の仕事の一端をぜひご覧ください。

調査・研究活動

X線CT調査の様子



新たなる発見を求めて

熱い探究心と精力的な調査・研究活動が、神秘の扉をひらく。

九州国立博物館では、現在およそ30名の研究員が日々活動しています（令和5年4月1日現在）。研究員は各自の専門性を活かしながら、博物館全体の機能に沿った役割を担っています。また、国内外の研究者・専門家と広くネットワークを築きながら常に新たなフィールドに向けて走り続けています。

科学研究費助成事業（科研費）

文部科学省および独立行政法人日本学術振興会が実施するこの事業は、日本国政府全体の競争的資金（研究者が応募した研究計画を審査することにより配分される資金）の5割強を占める、国内最大規模の制度です。

国立博物館もひとつの研究機関として、このような外部からの資金を確保しそれを有効活用することで、より幅広く先進的な研究成果を国民の皆さまに還元できるよう努力しています。

採択実績　令和5年度科学研究費助成事業採択研究課題一覧

（令和5年4月1日時点）

研究代表者	所属部局・職名	研究種目	研究課題名	研究期間（年度）
島谷　弘幸	館長	基盤研究（B）	在外日本美術の保存修復技法の比較調査と国際的な保存活用に向けて	R4～R7
木川　りか	博物館科学課長	基盤研究（B）	博物館等の展示収蔵環境の有機酸VOCs低減に向けた現場システムの構築	R3～R5
川畑　憲子	企画課特別展室長	基盤研究（C）	中国製鎗金器の基礎的研究―東アジアにおける漆器の相互的影響―	R3～R7
志賀　智史	博物館科学課保存修復室長	基盤研究（C）	九州の古墳出土ベンガラの流通に関する実証的研究	R3～R5
松浦　晃佑	文化財課研究員	基盤研究（C）	近世大名家伝来コレクションの基礎的研究―松浦家コレクションの分析を通じて―	R3～R7
桑原有寿子	企画課研究員	若手研究	名物裂を中心とした日本伝世古渡裂の歴史的・技法的成立過程を探る研究	R2～R5
渡辺　祐基	博物館科学課研究員	若手研究	数理モデルと非破壊評価法に基づく文化財害虫の検出精度の向上	R4～R6

（基盤研究B）東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究

インドで生まれた仏教は、時代と共にさまざまに形を変え、アジア諸国へ広がりました。本研究では、インドで仏教が衰退した後の東南アジア、特にタイにおいて、ブッダの存在を示す仏足跡（ぶっそくせき）やインドの仏教聖地に対する信仰がでどのように育まれていったのかを、遺物や経典を通じてたどろうとするものです。

タイではスコータイ王朝（13～15世紀）以来、上座部仏教が主流となり、当時のスリランカやミャンマーとの間で僧侶などが盛んに往来しました。スリランカに残る聖なる仏足跡の模造や、ブッダ成道の地であるインドのボードガヤーの寺院を真似て作られた寺などが、タイでは信仰を集めました。これらの調査を通して当時の仏教受容のあり方を研究しています。

タイの仏教寺院に安置される仏足跡の調査（撮影・計測）

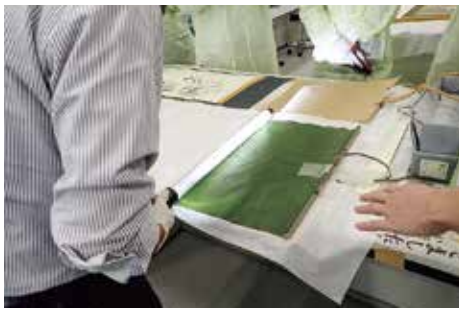
ワット チューンキーリー（スコータイ）

ワット ビチャヤヤートティカーラーム（バンコク）

独立行政法人国立文化財機構　文化財防災センター

近年、頻発している巨大地震や台風、豪雨などの災害は私たちの暮らしだけではなく、各地の文化財にも甚大な被害を及ぼしています。国立文化財機構は、今後の災害に備えて大切な文化財を未来に伝えるため、令和2年10月1日に文化財防災センターを設置しました。文化財を被災しないようにする減災、災害発生時の文化財の救援支援、被災文化財を迅速かつ効果的に救援するための体制づくりと技術開発という3つのミッションを核に活動します。

当館では、これまでにも九州の各自治体、ミュージアム、専門機関等とのネットワーク構築を進めてきました。平成28年の熊本地震の際は、被災した文化財の救出活動に参加しました。また、平成29年7月の九州北部豪雨の発生を受けて、水に濡れた紙資料の応急処置を実習するワークショップを開催したり、災害対策の課題を学ぶセミナーを文化財行政職員、学芸員向けに実施したりするなど、文化財防災についての普及・啓発活動を行なっています。



水損書画の初期処置ワークショップ

埋蔵文化財センターにて文化財防災をテーマにした講習

column ｜ 研究成果の公表

学芸部博物館科学課長
木川　りか

日頃から行っている研究成果の一部を、展示や講演会、シンポジウム、研究紀要「東風西声」などの形で国民の皆さまに公開しています。最近では、CTを用いて調査した文化財の構造上の特徴を広く公開するため、CTデータを基にした精巧なレプリカを教育普及に活用しています。

新しい発見があったときのおもしろさ、ワクワク感を体験していただけるよう、これからも九博は進化していきます！

三次元計測結果をもとに作成されたハンズ・オン展示資料

国際交流

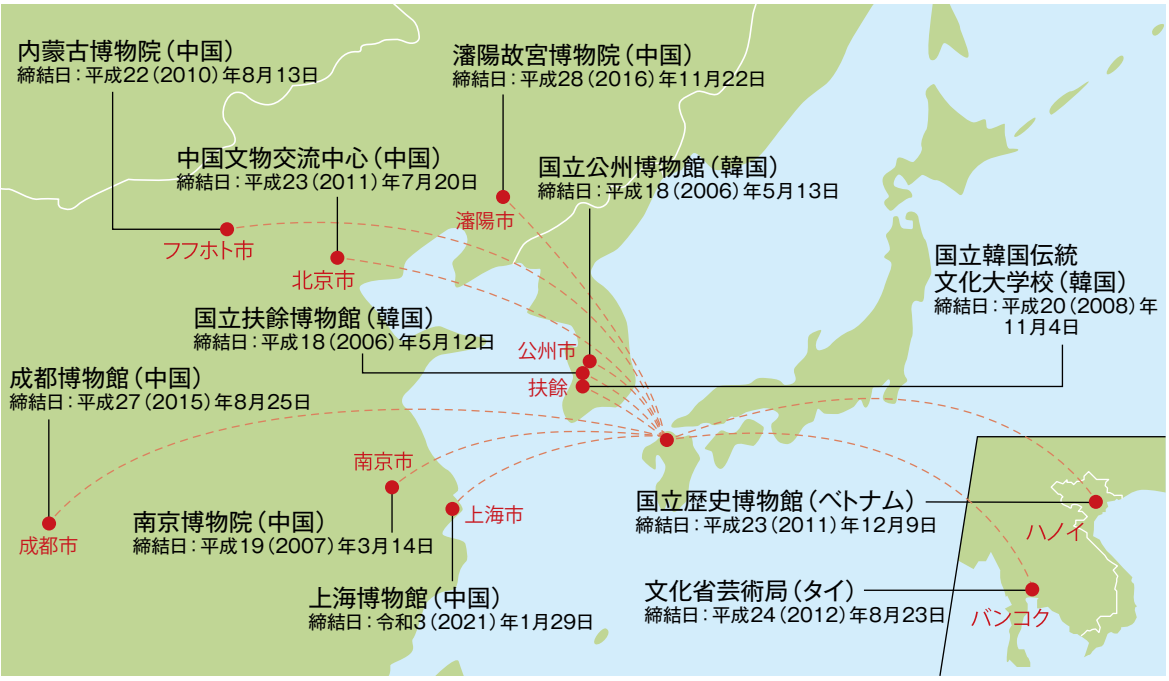
世界と繋がる博物館へ

文化と芸術が日本と世界を繋ぐ架け橋に。
アジア各地の博物館等との積極的な交流推進に取り組んでいます。

九州国立博物館は、アジア諸国との文化交流を推進する拠点としての役割を果たすため、海外の博物館等との学術交流、共同研究、研究者の派遣・受入や研修、国際シンポジウムの開催など交流事業に積極的に取り組んでいます。

韓国の国立扶餘博物館、国立公州博物館、国立韓国伝統文化大学校、中国の南京博物院、内蒙古博物院、中国文物交流中心、成都博物館、瀋陽故宮博物院、上海博物館、ベトナム国立歴史博物館、タイ王国文化省芸術局と学術文化交流協定を締結しており、今後も交流協定を礎として、新しい時代に向けた取り組みを推進していきます。

学術文化交流協定締結状況（令和5年4月1日現在）　計11機関



アジア各国の博物館等と連携しながら、様々な事業を実施しています。

国立扶餘博物館との学術交流

国立扶餘博物館と協力し、扶餘博物館の所蔵品を紹介するオンラインプログラムを実施しました。

タイ芸術局との学術交流

研究員同士の人的交流を実施しており、タイ国内に残されている仏教彫刻の調査や、文化財の保存や活用に関する情報共有を行っています。

ベトナム国立歴史博物館との学術交流

住友財団の助成を受け、共同で文化財の保存修復に取り組んでいます。

国際交流員の活動を紹介します。

留学生イベント

当館では毎年11月3日を「留学生の日」とし、留学生向けのイベントとして展示解説やバックヤードツアー、体験型ワークショップ等を実施しています。

九博SNSの多言語化

当館ではYouTubeやTwitter等のSNSを活用し、情報を発信しています。これらを英語、中国語及び韓国語に翻訳することで、海外の方にも広く情報を発信できるよう多言語化に努めています。
また、海外での利用者が多いFacebookでは、4ヵ国語（英・中・韓・日）で当館の魅力を発信しています。

面白くなければ博物館じゃない。

書初め大会

種子島の観光・物産展

一年を通して、いつでも、何度でも楽しめる多彩なイベントの数々。

九州国立博物館では、展示だけではなく、博物館の広いスペースを活用した様々なイベントを実施しています。
無料で参加できるイベントも多数あり、特別展の期間だけではなく、いつでも、何度でも楽しめる博物館を目指しています。

■ミュージアムコンサート

クラシック、ジャズ、邦楽、民族音楽など様々なジャンルのコンサートをはじめ、寄席、絵本の読み聞かせなど季節に合わせた内容で開催しています。

■さくらまつり

九博の森に拡がる「雲海桜」を背景に、コーラスや太宰府天満宮の巫女舞などが披露されます。

■茶道体験

茶道初心者を対象にした茶道体験を、茶室「宝満亭」で開催しています。年齢・性別・国籍を問わず、多くの方々にご参加いただいています。

■ガムランワークショップ

実際に楽器に触れ音色を体験しながら、アジアの青銅楽器について理解を深めることができる演奏体験プログラムです。

column ｜ 毎年恒例、飾り山笠の展示

交流課長
高椋　剛太

国の重要無形民俗文化財に指定されている博多祇園山笠。平成28年には、国連教育科学文化機関（ユネスコ）による無形文化遺産にも登録されました。博多っ子の心意気を全国や海外から訪れる人に見てもらいたいという趣旨から、開館以来、飾り山笠の展示を毎年実施しています。飾り付けや御神入れは一般公開で行われるため、独特の緊張感や神聖な雰囲気が見学者にも伝わってきます。

保管・収集

収蔵庫内通路

文化財は、過去の歴史と文化の結晶。その収集と保管は博物館としての大きな役割の一つです。収蔵品を丁寧・確実に管理し、未来への橋わたしをしています。

綿密に設計された収蔵庫による保管

博物館は、先人の足跡である各種文化財を収集し、適切に保管する役割を担っています。

収集された文化財は、「収蔵庫」に保管されます。九州国立博物館の収蔵庫は建物の中心に位置していて、直接外部と接しないように空気の層を設けた“二重構造（魔法びん構造）”です。また、空調設備は、恒温恒湿仕様の空調機を採用することにより、収蔵庫の中の温湿度を一定に維持しています。

さらに、収蔵庫の壁・天井には九州産の杉、また、床には北海道産のブナをそれぞれ使用しています。これにより、空調のみに頼らない湿度環境を保っています。

IPM（総合的有害生物管理）

博物館にある多くの資料のうち、木材や紙、皮革、布をはじめとする有機素材は昆虫の住みかや餌となって損傷を受けやすく、この虫害から文化財を守ることも博物館の大切な役割のひとつです。

これまでは文化財害虫を強力な薬剤で駆除することが主でしたが、この薬剤がオゾン層破壊の原因になるとして国際的に使用全廃が決定されたことを受け、新たに取り入れられたのが予防に重点をおいたIPM（Integrated Pest Management）です。できるだけ薬剤に頼らず、人の目と手による日常の点検や清掃などの予防を第一にして、環境にやさしい方法で駆除するという管理の方法です。

九州国立博物館では建築中からIPMに積極的に取り組んでおり、その実施には多くの市民ボランティアも参加しているのが特徴です。これまで、科学研究費の獲得や文化庁の委託事業、補助金事業の採択を受けながら、IPM支援者の養成や研修プログラムの策定・実施などに努めてきました。

かけがえのない文化財を守り、次の世代へ渡していくことは私たち世代全体の責任です。今後も、日々の点検・清掃に努めていきます。

地元九州産の杉板で内装された調湿性能に優れた収蔵空間

収蔵庫
各収蔵庫は、収蔵する文化財の大きさや材質・形状に応じて工夫されています。

収蔵庫の窓
中身の見えるタイムカプセルです。

細やかな収蔵庫IPMメンテナンス
文化財を虫カビ被害から守るために収蔵庫内についても精密な点検や清掃に努めています。

過去と現在をつなぐ文化財を、今なしうる最善の方法で未来に伝えていきたい。
美術・工芸・考古・歴史など、広い視点から文化交流に関する資料を重点的に収集しています。

新収品

九州国立博物館では、日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古、歴史、民族資料等を重点的に収集しています。
購入のほかに寄贈や寄託による受け入れも進め、九州国立博物館らしい切り口で積極的な活用に努めています。
令和4年度には新たに29件を購入し、41件の寄贈を受けました。ここでは、その中のいくつかをご紹介します。

購 入

①宝冠阿弥陀如来像 1幅
中国・南宋時代　13世紀

【作品概要】
宝冠を頭にのせるという珍しい姿の阿弥陀如来を細かな筆づかいで描いています。中国・南宋時代の正統的な仏画で、東京・静嘉堂文庫美術館の「釈迦如来像」や、蘭渓道隆請来と伝わる神奈川・建長寺の「釈迦三尊像」と共通する表現が見出せます。これら3作品は同一の制作環境で作られた可能性が考えられ、本作は南宋における仏画制作を考える上でも重要な作品です。鎌倉時代に日本にもたらされたであろうこのような作品は、それ以降の日本中世の絵画・彫刻の規範となり、多大な影響を及ぼしており、その価値はきわめて高いといえます。

②山口県竹島古墳出土品 一括
重要文化財
山口県周南市竹島御家老屋敷古墳出土
古墳時代　3～4世紀

【作品概要】
山口県周南市に所在する全長約56mの規模を持つ古墳時代前期の前方後円墳「竹島御家老屋敷古墳」より明治21（1888）年に出土した一括品です。昭和63（1988）年に「山口県竹島古墳出土品」として国の重要文化財に指定されました。なかでも、2面ある「三角縁神獣鏡」のうち1面は、中国・三国時代の魏の年号である正始元年（西暦240年）の年号を持つ記銘鏡であることが知られ、古墳時代開始期の日本列島と中国との交流を示す極めて貴重な資料です。また、この資料群は古墳の副葬品がほぼ一括の状態で維持されており、古墳時代前期前半の地域首長墓におさめられた副葬品セットの典型例を示す点でも、研究上重要な資料群です。

寄 贈

③太刀　銘貞綱 1口
平安時代　12世紀
北﨑徹郎氏寄贈

【作品概要】
美しい反りのある平安時代の太刀で、「貞綱」の銘があります。平安時代後期から鎌倉時代初期にかけて、伯耆国で活動した刀工たちを古伯耆と総称し、日本刀成立期の刀工として有名な安綱をはじめ、真守、守綱、真綱、有綱などが知られていますが、貞綱は現存作の極めて少ない刀工で、本品は貴重な古伯耆の作例です。なお、この太刀は室町時代後期の刀剣書『往昔抄』に茎の図が収載されている点も注目されます。

column ｜ 文化財を守る　登録と管理

文化財の収集と保管は博物館の大きな役割の一つです。大切な文化財を後世まで長く受け継いでいくために、今なしうる最善の方法で管理しています。そのために欠かせないことのひとつが、文化財それぞれの情報収集と台帳登録です。どのような由来のものか、博物館に入ってからどこで保管され、どのように展示されてきたか、修理されたことがあるか、状態に変化がないか、文化財の歴史としてすべての情報を蓄積しているのです。

学芸部文化財課長
野尻　忠

修復技術

Ⓐ フリーアームスタンドと顕微鏡による観察
Ⓑ 当館所蔵朱漆花鳥草樹螺鈿二層の修復
Ⓒ 当館所蔵重要文化財対馬宗家関係資料の修復
Ⓓ 当館所蔵仏涅槃図の修復
Ⓔ 精密三次元計測

千年前の文化を、千年後へ。
博物館科学を駆使した最新技術。

最新の博物館科学による保存と修復

X線CTスキャナ等の最先端技術により文化財を安全に調査し、その保存状態を明らかにした上で、現状を尊重した保存・修復を行っています。修復は6つの文化財保存修復施設（補修紙製作等、古文書・書跡・典籍、絵画、彫刻、考古、漆工）で行っています。

また、文化財に有害な生物を処理し、文化財を安全に保つための方法として、できる限り殺虫剤などを使用せず、環境にやさしい方法（低酸素濃度処理法など）を採用しています。

紙文化財の修理 【重要文化財】対馬宗家関係資料

虫喰いの穴が見事に修復されています。

修理前（部分）

▶

修理後（部分）

文化財レスキュー事業

当館は、平成23年3月東日本大震災以来、発災現場で被害を受けた文化財の救出活動に加わってきました。平成28年4月の熊本地震、平成29年7月の九州北部豪雨、平成30年7月の西日本豪雨、令和2年7月の球磨川豪雨の際にも、九州各県と協力して文化財の救出・応急処置・一時保管作業に取り組みました。

3Dプリンタで製作した五輪塔

X線CT調査 愛媛・等妙寺の菩薩遊戯坐像（伝如意輪観音）
X線CTスキャンによる解析で、像内の頸部に、約5.2㎝の「木製八角五輪塔」があることが判明。その中には遺骨に見立てた金属質の物質（舎利）を納める。

書跡や古文書を修理するための紙を漉く設備

職員も参加する寒糊炊き

古文書保存基礎講座

文化財修復について学ぶ学生研修

特別公開「博物館科学・文化財保存修復施設」

免震構造

安心の免震構造と省エネ対策。人・文化財の安全、そして自然環境を守ります。

3種類の免震構造

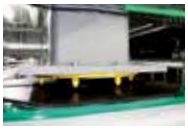
地震大国の日本において、地震による文化財の転倒、破損等を防ぐために、九州国立博物館の建物は「免震構造」になっています。これは地震の揺れが直に伝わるのを防ぎ、揺れを穏やかにするもので、建物内の展示室、収蔵庫は徹底的に守られています。平成17(2005)年3月、福岡県西方沖で発生した地震(震度4)においても特段の影響がなく、この構造の機能を果たしたことが証明されています。

免震層の見学(バックヤードツアー)

免震層＝

積層ゴムアイソレーター
(147個)

＋



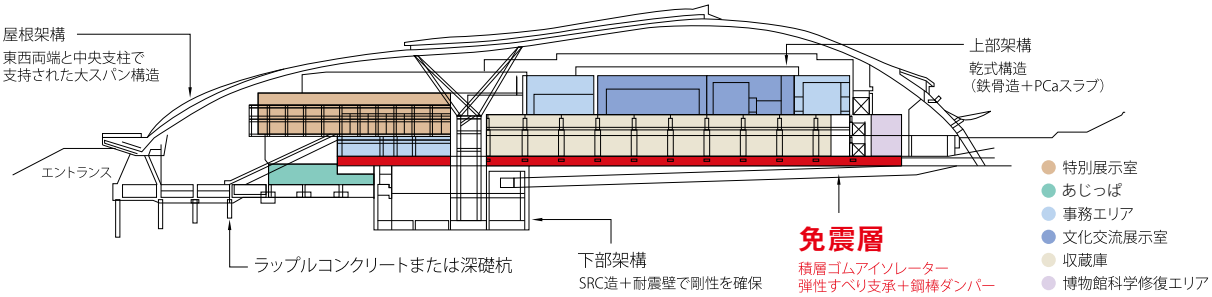
弾性すべり支承
(45個)

＋

鋼棒ダンパー
(40個)

博物館を取り囲む“ダブルスキン”

九州国立博物館の壁面には、ダブルスキンガラスを約2,000枚・約8,000㎡も使用しています。壁面のダブルスキン構造の幅は約1.5mあり、この空気層によって、外の温度が直接建物の中に伝わらないことにより結露や紫外線を防止しています(紫外線は99%カット)。これにより、季節を問わず快適な内部環境を確保できます。また、ガラス窓を用いることで自然光を建物内に取り込み、周囲の山並みと調和した空間を演出するのにも一役買っています。



環境へ配慮した自然エネルギーの活用

九州国立博物館は省エネ・省資源対策を施した、環境に最大限に配慮した設計となっています。ここでは、その一部をご紹介します。

太陽光発電設備 …最大で40kwの発電が可能です。

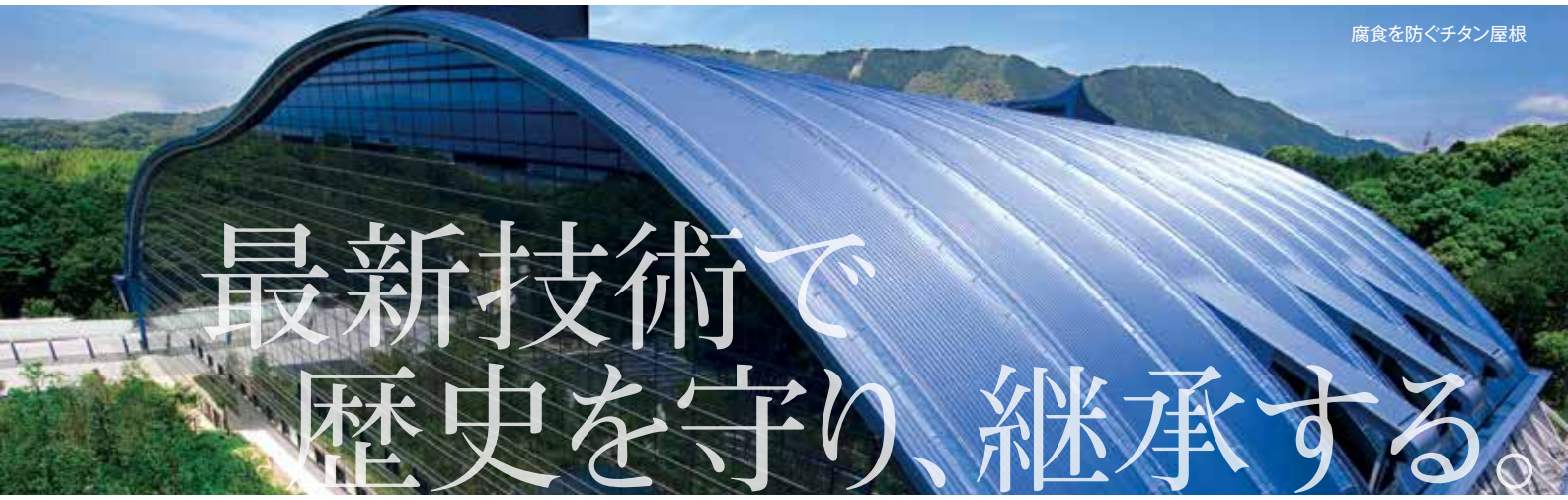
屋根散水設備 …雨水を利用した設備。屋根裏の温度上昇を抑え、快適な内部環境を保ちます。

雨水利用設備 …屋根に降った雨を地下の貯留層に貯め、ろ過後に便所洗浄水・植栽散水等に利用。

太陽熱利用設備(スカイラジエーターパネル) …太陽熱を集めて床の冷暖房に利用しています。

エアワッシャ …空気を水で洗う特殊な空調設備。収蔵庫、展示室系統に利用されています。

地中熱利用 …外気の取り入れには、「アースチューブ方式」を採用。
地下のコンクリートダクトに地上の外気を取り込み、これを館内の空調機やダブルスキンガラスの空気層に送り込みます。



施設利用案内

展示室以外にも魅力的な施設がたくさんあります。
展示だけでなく、お買い物に、イベントに、情報収集に、
九州国立博物館をどうぞご利用ください。

広報課長
野田　智子

ミュージアムショップ

1階エントランス
ポストカードや文具をはじめ、お菓子やTシャツ、「きゅーはくの絵本」をはじめとした書籍など、たくさんのラインナップにてお待ちしております。
TEL092-918-8818

オリジナルグッズもございます。

クリアファイル
花鳥蒔絵螺鈿聖龕

さいふごま
日新除魔図

金平糖缶
針聞書

九州国立博物館オンラインショップからも一部商品をお買い上げいただけます。
https://kyuhaku-museum.shop/

有料施設

茶室
「宝満亭」と「吉兆庵」があります。宝満亭は日本文化を体験する場として茶会などに、吉兆庵は「茶の湯」の世界を体感する場として見学に利用できます。

ミュージアムホール
席数：288席
広さ：ステージ部分
約45.5㎡（約3.5m×約13m）
ステージ以外
約240.5㎡（約18.5m×約13m）
椅子を外した場合（使用可能面積）
約208㎡（約16m×約13m）
備考：講演会や展示などに利用できます。（飲食不可）

研修室 A B
席数：70席程度（机、椅子がある状態）
広さ：約121.8㎡（約14m×約8.7m）
備考：講演会や研修などに利用できます。
半分に仕切って、片側だけの使用も可能です。
（写真は研修室ABをつなげて使用した場合）

和室（ 研修室 C ）
席数：26畳
備考：休憩などに利用できます。（飲食可）

〈ご利用方法〉
各施設の利用料金や利用状況についてはお電話にてご確認ください。
受付は、茶室・ミュージアムホールはご利用の4ヶ月前の初日から、研修室AB・和室はご利用の2ヶ月前の初日からお受けします。
TEL092-929-3602　FAX092-929-3980　担当：交流課

その他の施設

散策路

虹のトンネル

駐車場

バリアフリー（ほじょ犬用トイレ）

学校貸出キット「きゅうぱっく」

九州国立博物館では、博物館に関係のある資料を学校の授業等で活用してもらうために、トランクに詰めた16種類の教材を用意しています。

- □ 縄文人、海へ
- □ 遣唐使の時代
- □ あじっぱ五感
- □ 青銅器のいろいろ
- □ 高麗の文化
- □ 始めよう!米づくり
- □ 誕生!! 中国文明
- □ イスラームの祈り
- □ さまざまな香辛料
- □「土偶～祈りのかたち」
- □ さまざまな穀物
- □ 稲づくりから国づくりへ
- □ あじっぱ韓国
- □ 土器のいろいろ
- □「実践!勘合貿易」
- □ モンゴルの馬頭琴

お申込みの前に、必ずお電話で予約状況をご確認の上、事前に予約をしてください。
TEL092-929-3294　FAX092-929-3980
担当：交流課

会員制度・出版物

会員制度

九州国立博物館では、「来館者により良いサービスを提供する」「博物館により親しんでもらう」ことを目的として、国立博物館4館（九州・東京・京都・奈良）で連携した特典・制度を実施しています。
また、教育機関を対象に「キャンパスメンバーズ」制度を実施しています。
※最新情報は当館ホームページをご確認ください。

国立博物館メンバーズパス　一般2,500円/学生1,200円 ※発行日から1年間有効

特典
- 国立博物館（九州・東京・京都・奈良）平常展の観覧料無料
- 東京以外の国立博物館（九州・京都・奈良）特別展の割引観覧（団体料金）

九州国立博物館 友の会　年会費：7,500円 ※発行日から1年間有効

特典
- 国立博物館（九州・東京・京都・奈良）平常展の観覧料無料
- 九州国立博物館特別展の観覧料無料（計６回）
  （九州国立博物館特別展観覧券６枚）
- 東京以外の他の国立博物館（京都・奈良）特別展の割引観覧（団体料金）

九州国立博物館 メンバーズプレミアムパス　一般3,800円/学生2,500円 ※発行日から1年間有効

特典
- 国立博物館（九州・東京・京都・奈良）平常展の観覧料無料
- 九州国立博物館特別展の観覧料無料
  （計４回まで。うち同一展は２回まで。５回目以降は割引観覧（団体料金）。）
- 東京以外の他の国立博物館（京都・奈良）特別展の割引観覧（団体料金）

キャンパスメンバーズ

九州国立博物館では、平成19年度から大学や専修学校等の教育機関を対象とした「キャンパスメンバーズ」制度を導入しています。本制度は、大学等と博物館との連携を深め、より博物館に親しんでいただく機会を提供することを目的としています。会員校の教職員・生徒を対象に様々な特典を提供し、教育・研究面での協力はもとより、文化財の鑑賞機会の充実に努めています。

特典
- 文化交流展（平常展）の観覧料無料
- 特別展の観覧料金割引
- 九州国立博物館メンバーズプレミアムパスの割引購入
- 刊行物の無料提供
- 博物館実習・出張講義等の優遇措置
- 施設利用・イベント参加への優先
- レストラン・カフェ・ミュージアムショップの割引など

年会費　※会費は税込み

	1年間	3年間
250人未満	51,000円	131,000円
250人以上500人未満	103,000円	262,000円
500人以上1,500人未満	206,000円	524,000円
1,500人以上3,000人未満	309,000円	786,000円
3,000人以上5,000人未満	411,000円	1,048,000円
5,000人以上	514,000円	1,310,000円

キャンパスメンバーズ会員校　[20校]（令和５年４月１日現在）

[大　　学] 九州産業大学、九州情報大学、九州大学、久留米大学、第一薬科大学、筑紫女学園大学、日本経済大学(福岡キャンパス)、福岡工業大学、福岡大学、放送大学福岡学習センター
[短期大学] 九州産業大学造形短期大学部、福岡工業大学短期大学部、福岡女子短期大学
[専門学校] 久留米大学医学部附属臨床検査専門学校
[高　　校] 久留米大学附設高等学校、筑紫女学園高等学校、筑紫台高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校、福岡大学附属大濠高等学校、福岡大学附属若葉高等学校
＊それぞれ50音順で掲載

九州国立博物館 賛助会

九州国立博物館の運営の趣旨にご賛同いただける方を対象とした寄附会員制度です。いただいたご寄附は、収蔵品の購入や教育普及活動等の当館の活動を通じて、皆様とともに広く文化振興を行っていくために有効に活用させていただきます。

年会費
＜団体＞プレミアム会員：500万円以上、特別会員：100万円以上、維持会員20万円
＜個人＞プレミアム会員：100万円、特別会員：20万円、維持会員：5万円

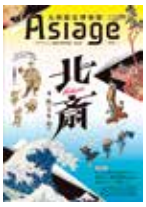
主な特典
※会員の種類によって特典は異なります。
・文化交流展、特別展の無料観覧　・特別展内覧会へのご招待
・季刊情報誌「アジアージュ」の送付　など

会員
令和５年４月現在
団体（プレミアム会員）　公益財団法人九州国立博物館振興財団 様
団体（特別会員）　太宰府天満宮 様　福岡地所株式会社 様
団体（維持会員）　藤仲興産株式会社 様
正筆会 様　正晃株式会社 様
国立大学法人九州大学 様　有限会社前田商会 様
筑紫ガス株式会社 様　株式会社テレビ西日本 様
一般社団法人太宰府観光協会 様
株式会社西日本新聞社 様
日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社 様
読売新聞西部本社 様　トヨタ自動車九州株式会社 様
日本カルミック株式会社 様　朝日新聞社 様
光村図書出版株式会社 様　久留米運送株式会社 様
株式会社セルコン 様　株式会社丹青社 様　（他１社）
個人（特別会員）　井茂圭洞 様　髙木千鶴子 様　不老安正 様
榎本一彦 様　黒田賢一 様
個人（維持会員）　石田勝世 様　髙木聖雨 様　山口耕雲 様
松元碩洲 様　松清秀仙 様　古木青翰 様
荒巻重彦 様　藪本俊一 様　藪本英介 様
齋田利実 様　青山慶示 様　鎌田迪貞 様
堀内洋志 様　矢次隆之 様　力久 航 様
外間一智 様　島田隆士 様　鳥山 玲 様
市川弥那美 様　早田憲司 様　（他9名）

出版物

当館の活動を広く理解してもらうために様々な出版物を製作しています。

研究紀要「東風西声」
調査研究成果を冊子にしたもの（年1回発行）。



季刊情報誌「アジアージュ」
特別展・文化交流展の紹介を中心とした広報誌（年4回発行）。

特別展図録
特別展室で開催する特別展の解説。

特集展示リーフレット
文化交流展示室で開催する特集展示の解説。

「ベトナム語の絵本」
江戸時代のベトナムと日本の貿易の様子を描いた「海のむこうのずっとむこう」をベトナム語に翻訳。（現地機関に配布）

「きゅーはくの絵本」 子どもたちに日本の歴史・文化を分かりやすく、親しみをもって理解してもらうために作った当館独自の絵本。

施設情報

基本情報

住所・連絡先
〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2（太宰府天満宮横）
ハローダイヤル 050-5542-8600（午前9時～午後8時/年中無休）
www.kyuhaku.jp

開館時間
午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
夜間開館日は午後8時まで開館（入館は午後7時30分まで）
※夜間開館は状況により実施していない場合がございます。

休館日
月曜日（月曜日が祝日・休日の場合は開館、翌日休館）、年末

文化交流展（平常展）観覧料
一般700円、大学生350円
※障害者手帳等をご持参の方とその介護者1名は無料。
※高校生以下・18歳未満および満70歳以上の方は無料。
※特別展は別料金。

文化交流展（平常展）観覧無料日
国際博物館の日（5月18日、ただし休館日にあたる場合は翌日）、敬老の日、文化の日（「留学生の日」とし、留学生については無料）、家族の日（11月第3日曜日。中学生以下のお子様とご一緒の方2名まで無料。1家族につき2名まで）

駐車料金

自転車	無料
バイク	250円/回
普通乗用車・準中型自動車	500円/回
マイクロバス	1,300円/回
大型バス	2,000円/回

※障害者手帳等の提示により免除。
詳しくはお問い合わせください。

駐車スペース

普通乗用車	313台
バス	9台

※駐車場の利用時間：
午前8時30分～午後7時
（入庫は午後4時30分まで）
夜間開館日は
午前8時30分～午後9時
（入庫は午後7時30分まで）

盲導犬、介助犬、聴導犬を伴っての入館が可能です。

施設概要

（㎡）

土地面積			159,844
建物面積	建築面積		14,623
	延面積		30,675
		内訳	独法 / 9,300　県 / 5,780　共有 / 15,595
展示・収蔵面積	展示面積		5,444
		内訳	独法 / 3,844　県 / 1,375　共有 / 225
	収蔵面積		4,518
		内訳	独法 / 2,744　県 / 1,335　共有 / 439

収蔵品（令和5年3月31日現在）

（件）

区分	総数	国宝	重要文化財
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館	1,581	4	46
	登録美術品 / 2（総数には含まない）		
福岡県立アジア文化交流センター	404	0	3

寄託品（令和5年3月31日現在）

（件）

区分	総数	国宝	重要文化財
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館	1,400	2	14

入場者数

入館者数

（人）

平成17年度	1,280,314
平成18年度	1,879,855
平成19年度	1,386,388
平成20年度	1,219,487
平成21年度	1,739,503
平成22年度	1,143,666
平成23年度	884,633
平成24年度	1,235,018
平成25年度	893,154
平成26年度	932,935
平成27年度	1,024,008
平成28年度	1,067,831
平成29年度	842,577
平成30年度	893,393
平成31（令和元）年度	829,655
令和２年度	149,919
令和３年度	236,468
令和４年度	535,611

文化交流展（平常展）入場者数

（人）

平成17年度	831,180
平成18年度	1,094,386
平成19年度	762,809
平成20年度	589,777
平成21年度	760,255
平成22年度	422,843
平成23年度	358,366
平成24年度	460,525
平成25年度	349,848
平成26年度	357,362
平成27年度	412,621
平成28年度	393,590
平成29年度	350,848
平成30年度	349,114
平成31（令和元）年度	348,563
令和２年度	81,230
令和３年度	104,898
令和４年度	239,282

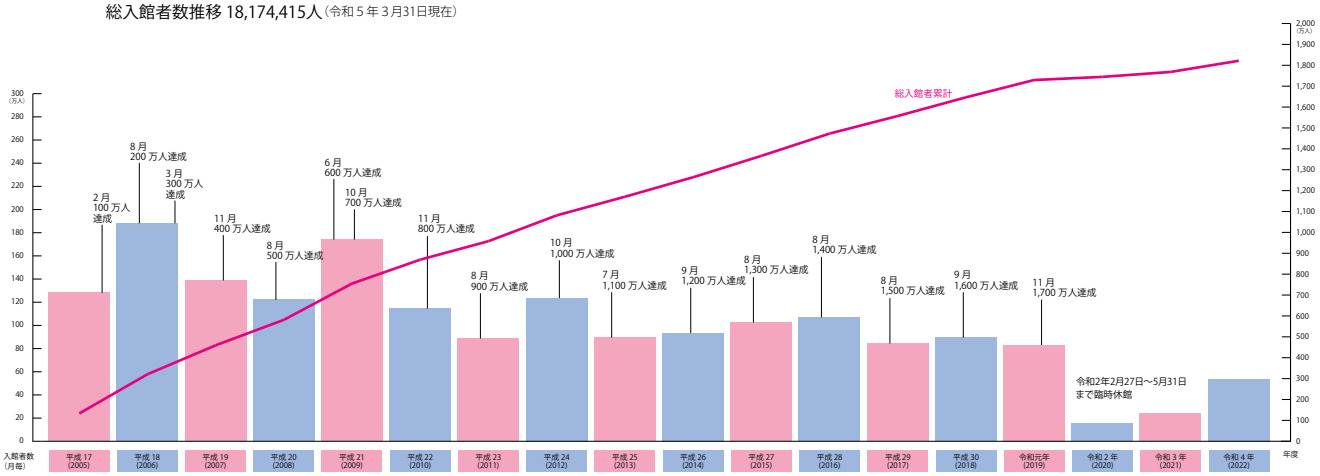
特別展入場者数

（人）

平成17年度	683,211
平成18年度	691,880
平成19年度	512,856
平成20年度	515,495
平成21年度	1,055,043
平成22年度	543,489
平成23年度	354,228
平成24年度	646,511
平成25年度	377,755
平成26年度	447,301
平成27年度	471,507
平成28年度	528,878
平成29年度	317,421
平成30年度	351,277
平成31（令和元）年度	325,714
令和２年度	50,432
令和３年度	108,255
令和４年度	283,918

※当館は館内に無料の施設もあるため、文化交流展・特別展の入場者以外も数値に含まれます。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年2月27日～5月31日まで臨時休館しました。

総入館者数推移 18,174,415人（令和５年３月31日現在）

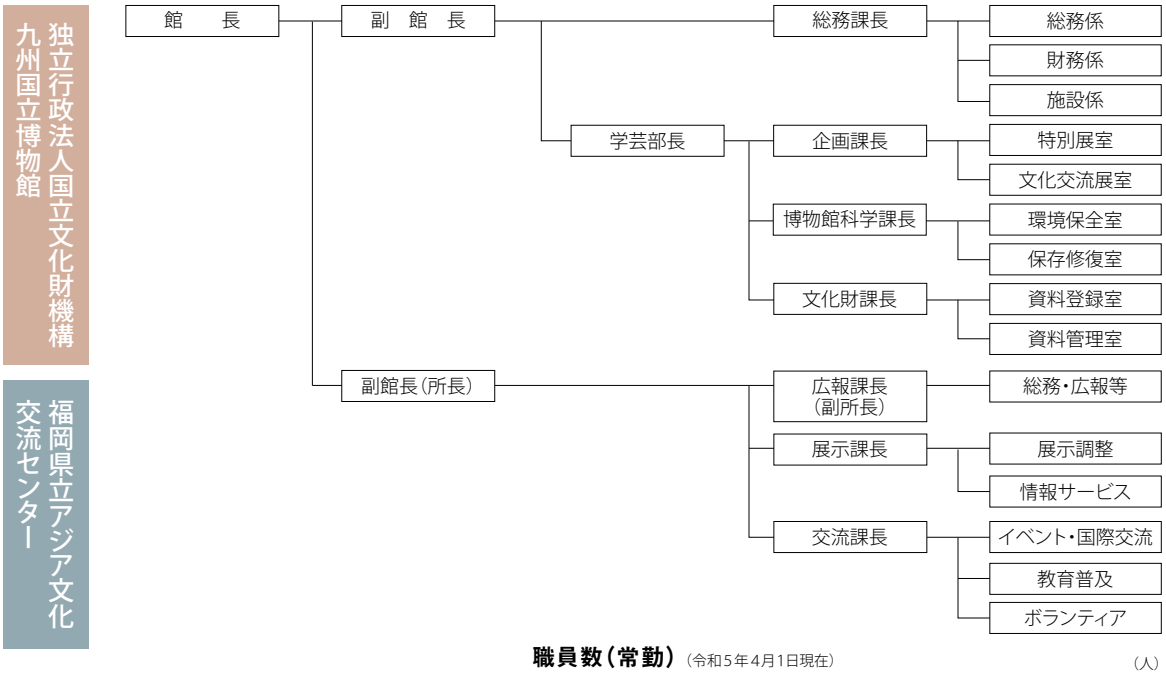


組織

九州国立博物館は、国（独立行政法人）と福岡県が連携協力し、事業運営を行っています。

この組織形態は、文化庁が設置した「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」において取りまとめられた基本構想の一つである「国と博物館が設置される地域と連携し、相互に協力しながら博物館の諸活動及び管理運営をおこなう博物館」に基づいています。

独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館は、主に文化財管理、展示、博物館科学事業を、福岡県立アジア文化交流センターは、広報、交流、教育普及事業を行っています。



職員数（常勤）（令和5年4月1日現在）　（人）

区分	職員数	一般職	研究職
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館	29	11	18
福岡県立アジア文化交流センター	19	11	8

沿革

平成 6（1994）年 6 月	文化庁が「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」（以下、委員会という）を設置。
平成 8（1996）年 3 月	文化庁が新構想博物館の設置候補地を福岡県太宰府市とすることを決定。 名称を「九州国立博物館（仮称）」とした。
平成 9（1997）年 6 月	委員会が、「九州国立博物館（仮称）基本構想」を策定。
平成11（1999）年 3 月 6 月	委員会が、文化庁長官に「九州国立博物館（仮称）基本計画」を答申。 文化庁及び福岡県が合同で、九州国立博物館（仮称）の設立準備に関する専門的事項を取り扱う「九州国立博物館（仮称）設立準備専門家会議」（以下、専門家会議という）を設置。
平成12（2000）年 3 月 4 月	専門家会議が「九州国立博物館（仮称）常設展示計画」を策定。 「九州国立博物館（仮称）建築基本設計」を完了。
平成13（2001）年 3 月 4 月	文化庁と福岡県が「建築実施設計」及び「展示基本設計」を完了。 東京・京都・奈良の国立博物館を統合し、独立行政法人国立博物館（以下、独法という）が発足。 独法内に「九州国立博物館（仮称）設立準備室」を設置。
平成14（2002）年 3 月 4 月	文化庁と福岡県が「建設工事（3年計画の第一年次）」に着手。 九州国立博物館（仮称）建設工事起工式（平成14年4月10日）
平成15（2003）年 4 月	独法及び福岡県が「展示工事（2年計画の第一年次）」に着手。
平成16（2004）年 3 月 10月	九州国立博物館（仮称）建設本体竣工（建物が完成）。 文化庁、独法及び福岡県が、正式名称を「九州国立博物館」と発表。
平成17（2005）年 3 月 4 月 10月	九州国立博物館展示工事（2年計画の第二年次）が完了。 独法が九州国立博物館を設置。また、福岡県が福岡県立アジア文化交流センターを設置。 開館記念式典（平成17年10月15日）が行われ、翌16日より一般公開が開始。
平成19（2007）年 4 月	独法と独立行政法人文化財研究所を統合し、独立行政法人国立文化財機構が設置される。 これに伴い、独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館となる。
平成20（2008）年 8 月 12月	入館者500万人達成（平成20年8月14日）。 九州国立博物館で日中韓首脳会議が開催される（平成20年12月13日）。
平成24（2012）年10月	入館者1,000万人達成（平成24年10月9日）。
平成27（2015）年10月	開館10周年を迎え、開館10周年記念式典を行う（平成27年10月17日）。
平成29（2017）年 8 月	入館者1,500万人達成（平成29年8月19日）。
令和 2（2020）年10月	開館15周年を迎える。

KYUSHU NATIONAL MUSEUM

九州国立博物館

www.kyuhaku.jp

■アクセスマップ

■交通案内

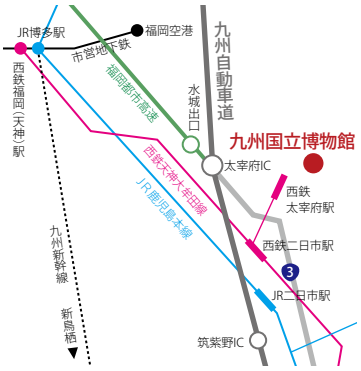
西鉄電車 ○西鉄福岡(天神)駅から西鉄天神大牟田線(特急約16分/急行約18分)で西鉄二日市駅乗り換え、西鉄太宰府線(約5分)で西鉄太宰府駅下車、徒歩約10分。※特急/急行料金不要

JR ○JR博多駅からJR鹿児島本線(快速約15分)でJR二日市駅下車、JR二日市駅から西鉄二日市駅(徒歩約12分、バス約6分)、西鉄二日市駅から西鉄太宰府線利用。

自動車 ○九州自動車道/太宰府ICまたは筑紫野ICから高雄交差点経由で約20分。○福岡都市高速/水城出口から高雄交差点経由で約20分。

タクシー利用 ○JR二日市駅から約15分・福岡空港から約30分。

西鉄バス ○博多バスターミナル(1階11番のりば太宰府行き)から西鉄太宰府駅下車(所要時間約40分)、徒歩約10分。※福岡空港国際線ターミナル経由



■周辺環境

■太宰府天満宮

菅原道真公を祭神として祀る天満宮のひとつ。初詣の際には日本全国から毎年200万人以上の参詣者があります。現在、京都の北野天満宮とともに全国天満宮の総本社とされ、また菅公の霊廟として篤く信仰されています。

■大宰府政庁跡

大宰府政庁跡(都府楼跡)は、かつて「遠の朝廷」と呼ばれ、7世紀後半、九州を治める役所が置かれた場所です。当時は壮麗な建築が建ち並んでいましたが、今は広い野原に大きな礎石(一部レプリカ)が並び、往時を偲ぶことができるスポットになっています。

■観世音寺

九州を代表する古寺で、東大寺、下野薬師寺とともに「天下三戒壇」の一つとされています。平安時代から鎌倉時代にかけての仏像(重要文化財)などが展示されおり、境内にある梵鐘は、日本最古の梵鐘の一つで国宝に指定されています。

■神護山　光明禅寺

菅家の生まれである鉄牛円心和尚が創建した臨済宗東福寺派に属する禅寺。枯山水の庭がある九州でただひとつの石庭苔寺、「九州の苔寺」とも呼ばれています。西鉄太宰府駅からの散策路「国博通り(西側アクセス)」沿いにあります。

写真提供:太宰府市・太宰府天満宮